

# 寺院を拠点としたインターンシップ

龍谷大学 農学部 資源生物科学科 助教  
奈良教区 吉野南組 光遍寺 住職

玉井 鉄宗

龍谷大学に農学部が開設され2年目を

てきました。

むかえています。42頁より掲載の末原農学部長の講演にもありますように、本農学部は、全国的に見ても35年ぶりに新設された農学部であり、現代の「食」や「農」に関わる多くの問題に対して、仏教を基盤とした新たな観点から切り込み、真に社会に役立つ教育・研究を行うことを目的として開設されました。龍谷大学に農学部が開設されたことを縁として、宗派の寺院活動支援部と協議を重ね、協力体制を模索しておりますが、その過程で「寺院を拠点とした農学部インターンシップ」というアイデアが浮上し

元々、「農学部インターンシップ」は、食品産業や農業に関わる企業に1、2週間程度学生を受け入れていただき、学生が実体験を通して社会の現実を学び、そこに内在する問題や自身に不足する能力などに気づくための重要な科目としてカリキュラムの中に組み込まれていました。学生を受け入れる企業からすれば、社会貢献の一手段であり、かつ有能な人材の確保にもつながる活動ですので、農学部側と企業側の双方にメリットがあるものと考えられます。このしくみを、農学部と過疎地域の寺院の関係にも適応で

きないかと考えました。

私自身も過疎地域の寺院の住職であり、年々、寺院を取り巻く環境が悪化していくことを実感しています。ご法義を継承していくためには、寺院を支える地域社会の活性化が不可欠です。過疎地域の寺院のご門徒には、農林水産業を営んでおられる方が多いです。農学部の学生がそこで学ぶことができれば、企業では経験できない貴重な体験ができるばかりではなく、過疎地域の実状を学ぶことができます。地域活性化の第一歩は、「過疎地域の現状を知ること」です。短期間学生が入っていくだけで過疎化問題が解決するわけではありませんが、それがきっかけとなり、新たな発想が生まれ、地域活性化につながる可能性があります。そして、寺院が地域社会と学生とをつなぐプラットフォームになり、地域活性化の中心的役割を担<sup>に</sup>っていくことができるのではないかと提案されたのが「寺院を拠点とした農学部インターンシップ」です。



募集初年度となる本年は、正直、実習先として寺院を希望する学生がどれほどいるのか心配でしたが、蓋を開けてみると、むしろ非常に人気がありました。確かに、学生目線で見ますと、企業の実習では限られたことしか経験できませんが、寺院の実習では、農業、畜産業、林業、漁業など多くのことを一度に経験できますので、寺院は魅力的な実習先で

す。事実、実習後の報告において、満足度が高かったのも寺院の実習でした。

本年度は、自坊でも学生を2名受け入れ実習を行いました。地元の農林水産業に精通したご門徒方を頼りに、棚田の稲刈り、杉山の間伐、アユ釣り等を体験させていただきました。学生

達は、自身の体力の無さ

と、不器用さにあきれながらも、精一杯実習に励んでいました。「いつまでこれらが続いていけるか分からないが、私が生きている間は守っていきたい。」との高齢者の言葉が学生達の胸に響いたようでした。また、通りがかりのご門徒の方々が、学生たちに声をかけてくださり、地域が一体となって取り組むことができました。急に地域が活性化したわけではありませんが、受け入れたご門徒にとっても、学生達にとっても心地よい刺激となったことは間違いありません。お



世話になった高齢のご門徒は、来年も学生達を受け入れることを楽しみにしております。